

小麦品種「ゆきちから」の栽培法と目標生育量

「ゆきちから」の畑圃場における標準秋播き栽培法は、播種量を密条播で6～8 kg/10aとし、基肥を「ナンプコムギ」慣行と同量を施用します。追肥は窒素成分で融雪期2 kg/10a、穂揃期4 kg/10aをそれぞれ施用します。

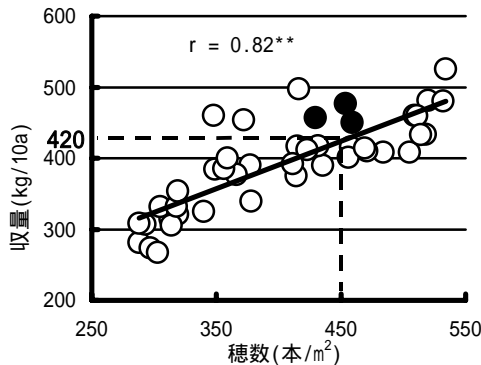


図1 穂数と収量の関係
注： は倒伏程度0.5以上の区（0：無～5：甚）

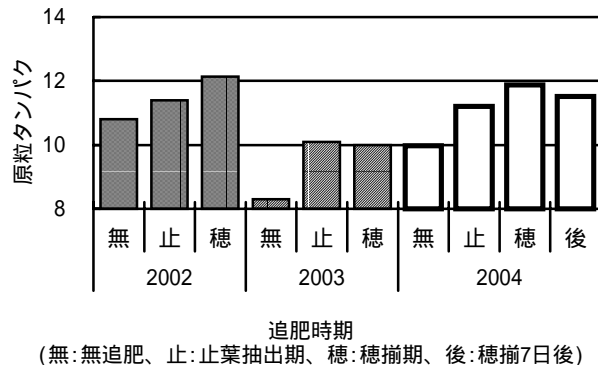


図2 後期追肥の時期と原粒タンパク含有率の関係
注：追肥窒素量は2 kg/10a

秋播き栽培法

- ・播種期：「ナンプコムギ」秋播き慣行に準じます。
- ・播種量：密条播で6～8 kg/10aとします。
- ・基肥：「ナンプコムギ」慣行と同量（窒素成分で4 kg/10a程度）とします。
- ・追肥：窒素成分で融雪期2 kg/10a、穂揃期4 kg/10aを施用します。
- ・目標生育量：穂数350～450 本/m²で期待収量は10a当たり360～420kgとなり、穂数450 本/m²以上になると倒伏する危険性がでてきます。

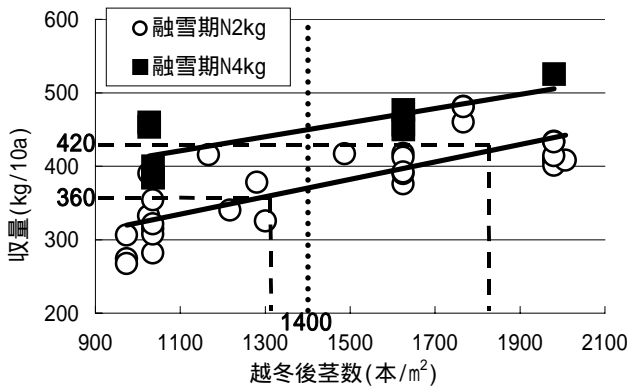


図3 越冬後茎数と収量の関係

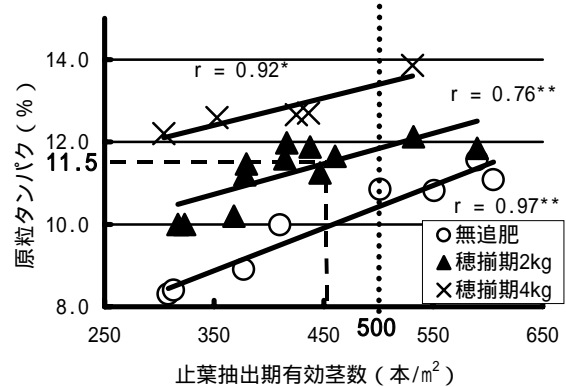


図4 止葉抽出期有効茎数と窒素追肥量ごとの原粒タンパク含有率の関係

生育診断

- ・融雪期：越冬後茎数1400 本/m²で未満の時は融雪期の追肥量を4 kg/10aに増やします。
- ・止葉抽出期：有効茎数（草丈1/2以上の茎）が500 本/m²以上ある場合、穂揃期の追肥量を2 kg/10aに減らしてもパン用小麦のランク要件である原粒タンパク含有率11.5%以上を確保できます。